

今回は、9月11日にZOOM開催された口腔顔面痛診断実習セミナーについて、いたばしデンタルクリニックの板橋基雅先生に報告していただきます。

口腔顔面痛診断実習セミナー参加報告

いたばしデンタルクリニック 板橋基雅

口腔顔面痛診断実習セミナーが、2022年9月11日、新型コロナ第7波の影響により昨年と同じくオンライン形式で開催された。本セミナーは口腔顔面痛診療に必要な診査、診断の知識や手技を習得することが目的である。私はコロナ禍前のセミナーを含めて4回目の受講となった。毎回、日本を代表するOFP専門医・指導医が、ベーシックから実践までを最新の知見を交えて、丁寧かつわかりやすく指導してくれるセミナーである。今回は、その概要を報告する。

参加者は事前にオンデマンド講義と小テストを修了しセミナーに臨んだ。本学会理事長・松香芳三先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野）によるオープニングリマークスが行われ、セミナーはスタートした。まず、村岡 渡先生（川崎市立井田病院歯科口腔外科）から、臨床診断推論実習の症例①の解説が行われた。症例は事前学習で提示されているものであり、参加者は鑑別診断の列挙までは終わっている。改めて症例の内容を確認した。

現症

全身所見: 身長157cm、体重50kg、体温36.3°C
 口腔外所見: 顔面腫脹なし
 顎下リンパ節腫脹なし
 口腔内所見: 口腔粘膜発赤なし
 75 | 7 打診痛あり
 歯肉圧痛なし、歯牙動揺なし
 歯周ポケットは全顎2~3mmで異常所見なし。
 「67部に部分床義歯を問題なく使用している。」

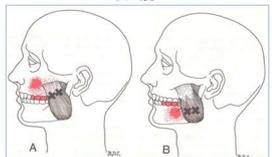
JSOP Seminar



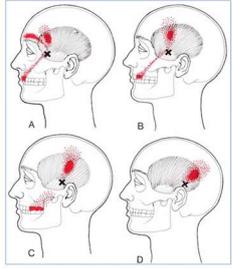
続いて小見山 道先生（日本大学松戸歯学部クラウンブリッジ補綴学講座）より、筋・筋膜性疼痛の診査法の解説とデモンストレーションが行われた。非歯源性歯痛の主な原疾患である筋・筋膜性疼痛の診査法の習得は、OFP診療では必須のスキルである。小見山先生の丁寧な解説とポイントを押さえたデモンストレーションは非常にわかりやすく勉強となった。

関連痛のパターン

咬筋



側頭筋



(Myofascial Pain and Dysfunction: The Trigger Point Manual, 1983 より引用)



小見山 (経団連)

その後、ZOOMのブレイクアウトルームを利用しWEB上で4～5名のグループ（A～D班）に分かれ実習が行われた。オンラインのため筋触診を自身の咀嚼筋で行う形の実習であったが、少人数の受講生に対し講師2人でのレクチャーより適切なフィードバックを得ることができ、理解を深めることができた。

続いて、症例①の臨床診断推論のグループ実習へ移った。臨床推論 (clinical reasoning) は歯学モデル・コアカリキュラム令和4年改訂版(案)に含まれることになり、歯科臨床においてその重要性が認識されつつある。ワークショップ形式での実習は、医療面接から得られた患者の言葉を医学用語へ置き換えるところから始まり、鑑別診断の想起、各疾患の確認作業、最終診断を決定するまでをファシリテーターのアドバイスのもと共同作業で進んでいく。これら診断プロセスを記録し、皆で共有し、検証し合うことは分析的な診断能力を身につける上で非常に有効なトレーニングであると感じた。



医療面接・構造化問診	Semantic Qualifier		鑑別診断	鑑別診断確認作業	結果	ステップ4 整合性確認	ステップ5 最終診断
1年3か月前から発症 #15、17の歯痛 痛みは増減あるが持続 疼く、ずきずき、鈍い ジーン、嘔むとずきん 痛みは中等度 #15、17、27に CTで根尖病巣 #28抜歯 めまい、眼高、内耳の 圧迫感 右顔面に痺れと圧迫感 起床時によい 食事で痛い 入浴で緩解 頭痛、めまい、涙が出る	慢性痛 菌原性歯痛 根尖病巣 持続痛 鈍痛 中等度の痛み 咬合痛 痺れ 日内変動あり 非菌原性歯痛 流涙 自律神経症状 眩暈 頭痛 服用薬剤種類	見逃しては ならない 疾患 この症状で 一般的な 疾患 この疾患の 可能性 他にこの 疾患も考え られる	脳腫瘍 内耳腫瘍 緑内障 蜂窩織炎 上顎洞ガン 上顎洞炎 上顎骨髄炎 巨細胞性動脈炎 菌原性歯痛 根尖性歯周炎 歯根嚢胞 歯根破折 非菌原性歯痛 筋筋痛 神経障害性疼痛 帯状疱疹後痛 メニエール	12脳神経検査 CT・MRI 医科受診 視野検査 血液検査	異常なし 異常なし		
			画像診断 打診痛 筋触診 診断的局所麻酔 三叉神経感覚検査 帯状疱疹既往 眩暈、水平眼振				
			三叉神経自TAC律神 経性頭痛 (TACs) 痛覚変調性疼痛 身体症状症	自律神経症状の 有無 片側性 頭痛発作時行動 心理テスト			

昼休みを挟んで午後の実習が始まった。西須大徳先生（愛知医科大学疼痛緩和外科・痛みセンター）より、臨床診断推論実習・症例②の解説が行われた。こちらも事前学習で鑑別診断の列挙までが終了しており、再度症例の振り返りを行った。

口腔顔面痛 診断実習セミナー2022 症例②

西須大徳
愛知医科大学 疼痛緩和外科・痛みセンター

日本口腔顔面痛学会 セミナー委員会監修

JSOP Seminar



続いて、小出恭代先生（日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座）より、12脳神経の診査法と脳神経スクリーニング実習のデモンストレーションが行われた。12脳神経検査は、見逃してはならない進行性病変、いわゆるレッドフラッグの鑑別を行う際にチェアサイドで簡便に行える検査法である。実際の検査動画を供覧しながらの小出先生の論旨明快な解説は「明日からでもすぐ行える」とイメージができる内容であった。その後、ディスプレイを介してファシリテーターが患者役となり12脳神経検査の実習が行われた。オンライン上での模擬的な実習であるが診査手順とデバイスを使用した各検査法について学習することができた。

プログラムも終盤となり受講者全員が参加しての総合質疑応答が行われた。参加者より多岐にわたる質問が挙げられ、活発な意見交換とディスカッションが繰り広げられた。また、質問に対するファシリテーターからの回答及び解説は、1日の「学び」の振り返りになった。

最後にセミナー企画運営委員会の久保昌和先生（日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座・付属病院学脳機能センター口・顔・頭の痛み外来）より、本セミナーのクロージングリマークスが行われ、ポストテスト・アンケートを終えた後、参加者全員が揃ったディスプレイ画面のスクリーンショットにより記念撮影を行い、セミナー終了となった。



本学会が主催する口腔顔面痛診断実習セミナーは、これから OFP を学びたい先生から既に取り組んでいる先生まで、あらゆるレベルの先生方が満足して学習できる内容である。ここ数年はコロナ禍のためオンラインでの開催であるが、移動に多くの時間を取られる私を含めた地方在住者にとってはメリットが大きく、大変ありがたい。また、両形式のセミナーを受講した経験から手技的な感覚の学習が求められる筋触診実習は対面での環境が適していると感じるが、座学および臨床診断推論実習に関してはオンラインでも十分な学びを得られると私自身は実感している。特に臨床診断推論実習はオンラインとの親和性が良く、ディスプレイを前に、皆で同じ情報・データを共有し、WEB上で効率的に共同作業が行える。可能であれば今後もオンラインでのセミナーは継続して欲しい。最後に、このような素晴らしい学習環境を提供してくれた講師、スタッフの方々に感謝したい。また、今後も本セミナーを引き続き受講し、スキルアップに努め地域医療における OFP 診療に微力ながら貢献できればと考えている。

【板橋基雅（いたばしもとまさ）先生のプロフィール】



- 1997年 奥羽大学歯学部卒業
- 2001年 奥羽大学大学院修了 博士（歯学）
奥羽大学口腔外科学講座 助手
- 2012年 いたばしデンタルクリニック開業
- 2018年 北海道大学病院 客員臨床講師
- 2021年 北海道大学病院 客員臨床准教授

【所属学会等】

日本口腔顔面痛学会 一般評議員・認定医
AAOP(American Academy of Orofacial Pain)

日本口腔インプラント学会 代議員・専門医・指導医

日本口腔インプラント学会指定研修施設 北海道形成歯科研究会・副会長

AO(Academy of Osseointegration)

日本口腔外科学会

日本口腔診断学会

日本救急医学会 認定 ICLS・BLS インストラクター

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp